

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 松村 華

1、はじめに

私は2017年2月26日より4週間、オーストラリアのシドニーにて語学留学を経験いたしました。滞在中はシドニーの中心部より30分ほどのアボッツホードというところでホームステイをし、平日はシドニーの中心部にあるアビリティイングリッシュという語学学校で英語を学びました。リスニング力とスピーキング力を向上できたとともに、世界各国の仲間たちとふれあい、様々な視点からのものの考え方を学べて、とても有意義な4週間となりました。

2、語学学校

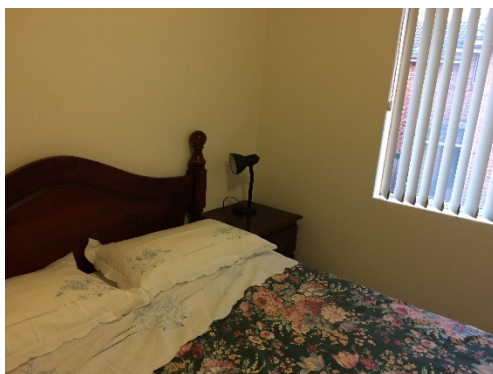
シドニーの中心部にあるセントラル駅から徒歩1分ほどにある、アビリティイングリッシュに通うことに決めた1番の理由は、他の語学学校に比べて日本人が少なめということでした。ネットにはアジア人も少なめと記載があったのと、学費が他の語学学校より少しではありますが、安かったこともあります。とはいえ実際に入学し授業を受けると、日本人が多く驚きました。しかし幸いなことに、日本人の女性はクラスには私しかおらず、クラスにいた日本人男性もみんな25歳以上の方だったこともあり、日本人同士でかたまってしまおうという英語の向上にあまりよくない環境をつくることなく過ごせました。しかし、自分のつたない英語でずっとコミュニケーションをとることは想像以上にむずかしく、毎日ヘトヘトになりました。自分の言いたいことが率直に言えない悔しさを毎日経験したため、英語の勉強に真剣に取り組みました。

授業中はみんな真剣に授業を受けており、その真剣な姿勢に毎日圧倒されていました。私も負けたくない、と思い授業が終わってからも毎日英語に触れ、世界各国からきたクラスメートとより充実した時間を共有しようと必死でした。午前中の授業では主に文法の学習をし、その日学んだ文法をたくさん口にだして覚え込みました。午後の授業は会話を重視した授業でした。正直、語学学校の授業で毎日こんなにエネルギーをつかうと思っておりませんでした。すべての授業はものすごくためになりました。クラスメートたちは私が最終日を迎えたとき、私の今後の活躍と幸運を祈っていると伝えてくれ、すごく嬉しかったとともにこれから私も自分の思っていることをどんどん人に伝えていこうと思いました。



3. ホームステイ

私はイタリア出身の女性の家にホームステイをしました。ルームメイトはブラジル人でした。ホストマザーはすごく元気で迫力のある女性でした。毎日のたくさんの食べ物に苦しめられたりもしましたが、私とルームメイトが体型を気にするようになると、比較的ヘルシーな夕食に変えてくれました。そしてこのホームステイで学んだことは、見知らぬ人との共同生活の大変さと楽しさです。私もルームメイトもまだ英語の能力が十分ではなく、コミュニケーションに苦戦したのも事実ですが、共同生活の一番の壁は言葉の壁ではないと思います。ブラジルから来たルームメイトは、毎日2回か3回シャワーを浴びていて、はじめはその理由が全然理解できなかったのですが、コミュニケーションをとるうちに、なぜ彼女がそんなに何回もシャワーを浴びるのか理解できるようになりました。ホストマザーはすごく口うるさい人で、途中ルームメイトと私は愚痴をこぼしたりしたのもいい思い出です。最終日にホストマザーに感謝の手紙を渡すと心から喜んでくれて、私の今後の幸せを本気で祈ってくれました。



4. まとめ

正直、はじめは短期留学がこんなに大変だとは思いませんでした。誰も知り合いがない土地で過ごす1ヵ月は、私を予想以上に強くしてくれたと思います。大変ではありましたが、私の人生のなかで一番ワクワクして楽しくて、人の親切に助けられ、人に親切にする素晴らしさを学んだ1ヵ月でもあります。また英語を勉強したいという思いは、留学に行く前よりもいったあとのほうが格段に大きくなっています。その思いをこれからも消さずに英語能力を伸ばしていきたいと思います。

